目次

ショートカット キーおよびショートカット メニューの使用 1

ショートカットキー及びショートカットメニューの使用: イントロダクション 1

ショートカット キーについての参照 1

ショートカット メニューについての参照 5

Windowsの標準ダイアログ ボックスでのショートカット メニュー 6

ツール バー エリアでのショートカット メニュー 6

グラフィックス表示ウィンドウでのショートカット メニュー 9

[自動パス ライン要素] ショートカット メニュー 19

編集ウィンドウでのショートカット メニュー 21

レポート ウィンドウでのショートカット メニュー 32

ショートカット キーおよびショートカット メニューの使用

ショートカットキー及びショートカットメニューの使用: イントロダクション

この付録では、PC-DMISで使用されている、メニュー オプション、ダイアログボックス、及び、コマンドの多くへのショートカットについて記述しています。ショートカットを使用すると、プログラム作成の時間が短縮され、生産性と効率の増加につながります。

この付録で記述されている、主な項目は以下の通りです。

- ショートカット キーの一覧
- ショートカット メニューについての参照

ショートカット キーについての参照

このテーブルには、英語で利用できるショートカットキーのリファレンスを提供します。ショートカット キーについての内容説明の冒頭が *イタリック体*で始まる場合、そのショートカットキーが適切に機能するためには、イタリック体テキストの項目が、アクティブなウィンドウであるか、または、焦点の当たっている項目でなければなりません。各オプションの機能固有の情報については、当文書の該当するセクションを参照して下さい。

非英文のショートカット キー キーボードは言語によって異なるため、非英語版で構築されたPC-DMISでは一部のショートカットキーの設定が異なる可能性があります。どのショートカットがPC-DMISの非英語版に関連しているかを確認するには、**カスタマイズ**ダイアログボックスの**キーボード**タブを参照してください。この**カスタマイズ**ダイアログボックスにアクセスするには、ツールバーエリアで右クリックして、**カスタマイズ**を選択します。**キーボード**タブを使用する情報については、「ユーザインターフェースのガイド」の章にある「ショートカットキーのカスタマイズ」を参照してください。

キー	説明	キー	説明	キー	説明
F1	オンライン ヘルプに アクセスします。	Ctrl + A	*編集ウィンドウ:* すべてのテキストを選択します。 *フォーム および レポート エディタ:* すべてのオブジェクトを選択します。	Ctrl + F1	PC-DMISを変換モードに置きます。

F2	*編集ウィンドウ:*カー ソルが、式を受け 入れ るライン上にある 場合、**式ビルダ**ダイアログ ボックスを開きます。	Ctrl + C	*編集ウィンドウ:*選択されたテキストをコピーします。 *フォームお よびレ ポート エディタ:*選択された オブジ ェクトをコピーします。	Ctrl + F2	PC-DMISを回転 2Dモードに置きます。
F3	*編集ウィンドウ:*コマンドを実行用にマーク / マークを消去します。 カーソルが外部オブジェクト上に存在する場合、F3 は、印刷モードと実行モード間で切 り換えを行 います。	Ctrl + D	現時点のフィーチャーを削除します。	Ctrl + F3	PC-DMISを回 転 3D モードに置き、**回転** ダイアログボックスを開きます。
F4	*編集ウィンドウ:*編集ウィンドウの内容を印刷します。	Ctrl + E	選別された要素かコマンド(この近道ショートカットをサポートするそれらのコマンドのための)を実行します。	Ctrl + F4	PC-DMISをプログラム モードに置きます。
F5	**セットアップ オプ ション**ダイアログボックスにアクセスします。	Ctrl + F	**自動フィーチャー** ダイ アロ グボッ クスが開きます。	Ctrl + F5	PC-DMISをテキ スト ボックス モードに置きます。
F6	**フォントセ ット ア ップ** ダイアログ ボ ックスにアクセスします。	Ctrl + G	編集ウィンドウ内 に`READPOINT/`コマンドを挿入します。	Ctrl + Tab	編集ウィン ドウ を最 小 規模に縮 小したり、 普通の大きさに回 復したりします。
F7	*編集ウィンドウ:* 選択さ れたトグルフィールド内で、アルファベット順で次のエントリーに進みます。	Ctrl + J	*編集ウィンドウ:*参照されているコマンドにジャンプします。	Ctrl + Shift	グラフ上の、選択された分析矢印を隠します。
F8	*編集ウィンドウ:* 選択されたトグルフィールド内で、アル ファベット順で 直前エント リーに後退します。	Ctrl + K	編集レポー ト内で、選択さ れた寸法を保存します。	Ctrl + End	*編集ウィン ドウ:* 現時点での測定ル ーチンの末尾に、カーソルを移動します。
F9	*編集ウィンドウ:* カー ソルの 位置にあるコマン ドに関連した、ダイアログボックス を開きます。	Ctrl + L	その時点で選 択された、コマンドのブロッ クが実行されます。	Ctrl + Home	*編集ウィンドウ:*現時点での測定ルーチンの開始に、

					カーソルを移動します。
F10	**パラメータ設定** ダイアログ ボックスが開きます。	Ctrl + M	MovePoint コマ ンドを挿入します。	Ctrl + Alt + A	**パーツ配置**ダイアログ ボックスが開きます。
F12	**取付具の設定**ダイアログ ボックス が開きます。	Ctrl+N	測定ルーチンの新規作成	Ctrl + Alt + L	QuickAlign機能を使用して自動整 列を作成します。
SHIFT + 右クリック	**画図サイズ調整**ダイア ロ グ ボックスが 開きます。	Ctrl + O	測定ルーチンを開くこと	CTRL + ALT + P	**プローブのユーティリティ**ダ イアログ ボックスを開きます。
Shift + Tab	*編集ウィンドウ:* 直前のユーザーの編集可能なフ ィールドに、 カーソルを戻します。	Ctrl + P	グラフィックの表示ウ ィンドウの印刷	Ctrl + Click	テキスト ボックス モ ー ドにおいて、グラフ ィックス表示ウィン ドウ内のフィーチャー、または、 ラベルID上でこの動作を行うと、 カーソルが編集ウィンドウ内 のそのフィーチャー上に 移動します。 **分析** ダイアログ ボックス が開いた状態で、 この動作を行うと、それ は関連した寸法すべてを選 択します。
SHIFT + 矢印	カーソルの移 動につれ、すべ てのテ キストがハイ ライト表 示さ れます。	Ctrl + Q	*編集ウィンドウ:* 現時点の測定ルーチンを 実行します。	アップ矢印	*編集ウィンドウ:* 現在のポジションの上に、 次のに利用可能なフィー チャーにカーソルを移動します。
Shift + F5	*編集ウインドウ:* 寸法のヒットを変更 すると、寸法の表 示はデカルト と極座標の間で、切 り替えます。' P'文字は極座標表示モードを示します。	Ctrl + R	**回転**ダイアログ ボック スが 開きます。	ダウン矢印	*編集ウィンドウ:* 現在のポジションの下に、次の 利用可能 なフィーチャー にカーソルを移動します。
Shift + F6	*編集画面 :* コマンド モードに ある 場合、これは **カラー** **エディタ**ダイアロ グボッ クスを開 きます。	Ctrl + S	現在の測定ルーチ ンを保存します。	右矢印	*編集ウィンドウ:* 現在の ポジシ ョンの右 側の、次 の利 用可能なフ ィーチャ ーにカー ソルを移動します。 要約モードに おいて、これは、縮約された一

					覧を拡大します。
Shift + F10	*編集ウィンドウ:***ジャン プ先** ダイアログ ボックスにアクセスします。	Ctrl + T	*編集ウィンドウ:* その時 点で のコマンドを (または、選択されたコマンド) アーム１、アーム２、 あるいは、その両方に割り当てます。	左矢印	*編集ウィンドウ:* 現在のポジションの左に、次の利用可能なフィー チャーにカーソルを移動します。 要約モードにおいて、これは、 拡大された一 覧を縮約します。
終了	フィーチャーの測定を終了します。 *編集ウィンドウ:* 現時点での ラインの終 端に、カーソ ルを移動します。	Ctrl + V	*編集ウィンドウ:* クリッ プボード の内容 を貼り付けます。 *フォームお よびレポート エディタ:* コピーされた オブジェクトを貼り付けます。	ALT + "-" (マイナス)	ALTに続いて、マイナス キーを押すと、ヒット バッファ内の直前のヒットを削除します。
Home	*編集ウィンドウ:* 現在のラインの冒頭に、カー ソルを移動 します。	Ctrl + X	*編集ウィンドウ:* 選択されたテキストを切り取ります。 *フォームおよびレポート エディタ:* 選択したオブ ジェクトを切り取ります。	Alt + C	**ClearanceCube** ダイアログボックスを表示します。
ﾀﾌﾞ	*編集ウィンドウ:* 次のユーザー編集可能なフィー ルドにカー ソルを移動します。	Ctrl + Y	*編集ウィンドウ:* カーソルの所在位置から、測定ルーチンを実行します。	Alt + H	**ヘルプ**メニューに アクセスします。
ESC	入力キーが押される前に、このキーが押 されると、 すべてプロセス(データ エントリー以外)が中止されます。	Ctrl + Z	スケール適合機能をアク ティブ にします。	Alt + J	*編集ウィンドウ:* 参照 されている コマン ドから ジャンプして戻ります。
削除する	*編集ウィンドウ:* 「バックスペース」を参照 して下さい。	Ctrl + Enter または Returnキー	*編集ウィンドウ:* 要約モードにおいて、このキーボードのショ ートカットを用いると、編集ウィンドウに付け加えるコマ ンドを選択することができます。	Alt + P	*グラフィックの表示ウィンドウ:* プローブの現在のパスを描きます。
Backspace	*編集ウィンドウ:* ハイライト表示された文字すべ てを削除 します。 ハイライ ト表示されたものがない場	Ctrl + Click	複数の表面の選択 に対応 する、ダイアログ ボックスが開いた状態で、 これは、選択さ れて いない	Alt + F3	*編集ウィンドウ:* **検索**ダイアロ グボック スを開きます。

	合には、普通の エデ ィタ内と同じように機能します。 項目を削除できない場合、エラー メッセー ジが表示されます。		表面を選 択するか、または、選択され た表面の選択を消去します。		
Enter または Return	*編集ウィンドウ : カーソルが行* から移動さ れる前に、 完了していない場合、自動的 に削除される 空白行を 新規作 成します。 コマンドを選びます。	Ctrl + Click	*グラフィックス表示ウィンドウ:* CAD面上の未使用領域で、このア クションを 実行すると、選択されたすべ ての面の選択 が解除されます。	Alt + Backspace	*編集ウィンドウ:* 編集ウィンドウ内で行われた、 直前の操作を取り消します。
Shift + F4	**機械インターフェ　イ ス** の **設定**を開　始します。	Ctrlキー+左マウ スドラッグ	マウスがリリースさ れる時、ダイアログ ボックス、または、ツール バーを、インターフェース 内にドッキン グす ることなく、ドラッ グします。	Shift + Backspace	*編集ウィンドウ:* 編 集ウィンドウ内で取 り消された、直前 の操作を再実行します。
SHIFT + 右クリック	*レポート ウィンド　ウの ラ ベル オブ* *ジェ クト: **レポー ト**ダイアログ* *ボック スを表示 します。*	Ctrlキー+左マウ スドラッグ (また、中心に あるマウス ホ イール ボ タンをクリ ックし、 ドラッグし て下さい)	*グラフィックの* *表示ウインドウマウ* スがドラッグされると、グラ フィックス表示ウィ ンドウ内で2D でCADモデルを回転します。	Alt キー+ 右マウ スド ラッグ	*グラフィック表示* *ウインドウ:*マウス がドラッグさ れると、グラフィッ クス表示ウィンドウ内で2DでC ADモデルを回転します。
SHIFT + クリック	*グラフィックの表示ウィンドウ:* ハイライト表示のCAD要素に 基づいて、 自動要素を作成します。			ALT + クリック	*グラフィックス 表示ウ ィンドウ:* 編集ウィンドウの 基本となる要素のマッ クされた状態を切り替えます。

ショートカット メニューについての参照

ショートカットメニューは、ユーザーインターフェイスの特定のエリアを右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューです。この項は、各種ショートカット
メニューへのアクセス方法と、様々なメニュー オプションの機能を説明します。

Windowsの標準ダイアログ ボックスでのショートカット メニュー

Windowsのダイアログボックス（例えば、**オープン**、**保存**、および**印刷**ダイアログボックスなど）に存在する標準コマンド以外にも、PC-DMISは一定の条件でショートカットメニューに機能を追加することができます。これらの多くは「高度なファイルオプションの使用」及び「基本的なファイルオプションの使用」で説明されています。

他のファイル オペレーションを開き、保存し、または、使用している時、以下のショートカット メニューのオプションを表示するには、ダイアログ
ボックスに一覧表示されている、その測定ルーチンのファイル名を右クリックして下さい。

PC-DMIS インポート
選択された測定ルーチン内に、入力ファイルからのデータをインポートします。「高度なファイルオプションの使用」の章にある「CADデータのインポート」を参照して下さい。

PC-DMISのエクスポート
選択された測定ルーチンから、出力ファイルへデータをエクスポートします。「高度なファイルオプションの使用」の章にある「CADデータのエクスポート」を参照して下さい。

開く
測定ルーチンを開きます。「基本的なファイルオプションの使用」の章にある「既存の測定ルーチンを開く」を参照して下さい。

切取り
測定ルーチンを切り取り、それをクリップボードに移動します;
これは、切り取られたファイルを別のフォルダ内に配置するために Windowsの**貼り付け**
コマンドと共に使用されます。

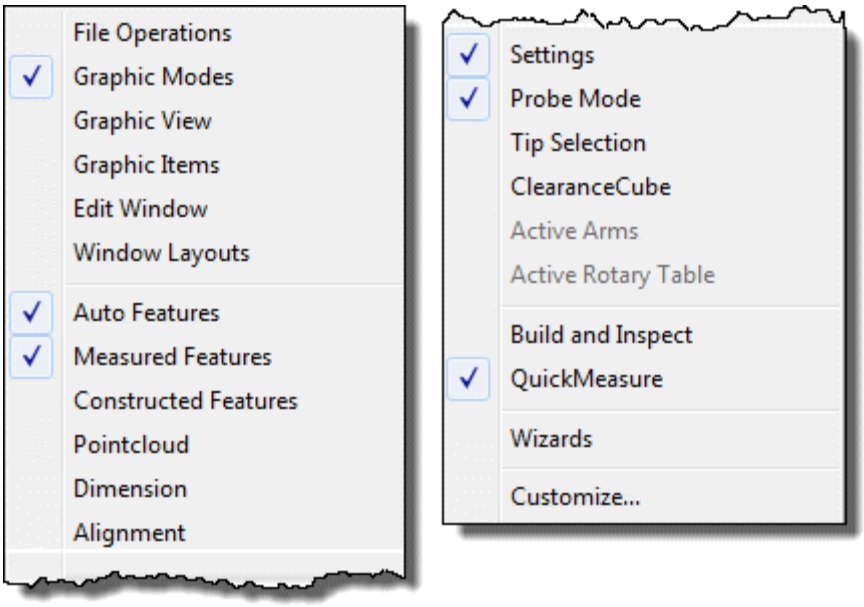
コピー
測定ルーチンをコピーし、それをクリップボードに移動します;
これは、コピーされたファイルを別のフォルダ内に配置するために **貼り付け**
コマンドと共に使用されます。「基本的なファイルオプションの使用」の章にある「ファイル操作の実行」を参照して下さい。

改名
測定ルーチンの名前を変更します。

削除
測定ルーチンを削除します。「基本的なファイルオプションの使用」の章にある「ファイル操作の実行」を参照して下さい。

ツール バー エリアでのショートカット メニュー

ツール バーエリアを右クリックすると、PC-DMISは、即座にアクセスが可能な、ツール バー、及び、他のオプションの一覧を表示します。以下が含まれます。



以下のオプションが利用可能です。

ファイルのオペレーション
ファイル オペレーションツールバーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー エリアから除去します。

グラフィックス モード
グラフィックスモードツール バーをツールバー エリアに追加、または、ツール バー エリアから除去します。

編集ウィンドウ
編集ウィンドウ ツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー エリアから除去します。

ウィンドウのレイアウト
ウィンドウのレイアウト ツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー エリアから除去します。

要素の自動作成
要素の自動作成ツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー エリアから除去します。

測定された要素
測定された要素ツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー
エリアから除去します。

構築された要素
構築された要素ツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー
エリアから除去します。

PointCloud
PointCloudツール
バーをツールバーのエリアに追加するか、またはツールバーのエリアから除去します。

寸法
寸法ツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー
エリアから除去します。

整列
整列ツールバーをツール
バーのエリアに追加するか、またはツールバーのエリアから除去します。

設定
設定ツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー
エリアから除去します。

プローブ モード
プローブ モードツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー
エリアから除去します。

測定子の選択
測定子の選択ツールバーをツールバーのエリアに追加するか、またはツール
バーのエリアから除去します。

ClearanceCube
ClearanceCubeツールバーをツールバーのエリアに追加するか、またはツールバーのエリアから除去します。

アクティブアーム
アクティブアーム ツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー
エリアから除去します。

アクティブな回転テーブル
アクティブな回転テーブル ツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー
エリアから除去します。

構築と検査
構築と検査ツール バーをツールバーのエリアに追加するか、またはツールバーのエリアから除去します。

QuickMeasure
指定の**QuickMeasure**ツールバー(CMM QuickMeasure ツールバー、Portable QuickMeasure ツールバー、 Vision QuickMeasure ツールバー、 QuickCloud ツールバー)をツールバーのエリアに追加するか、またはツールバーのエリアから除去します。

ウィザード
ウィザードツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バーエリアから除去します。

カスタマイズ
特別な用件を満たすために、ツールバー、及び、メニューをカスタマイズします。「ユーザーインターフェースの利用」の章にある「ユーザー インターフェースのカスタマイズ」を参照して下さい。

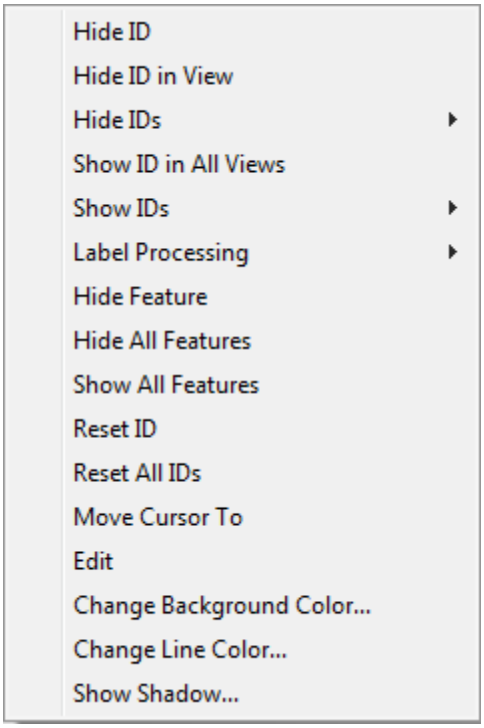
ツールバーに関する情報については、「ツールバーの使用」の章を参照してください。

グラフィックス表示ウィンドウでのショートカット メニュー

以下のショートカットメニューは、グラフィックス表示ウィンドウ内 (**ビュー | グラフィカル表示ウインドウ**)で利用可能です。特定のエリアを右クリックすることによって、それらにアクセスします。それらの一部は、PC-DMISが特定のモードにあることを要求します(「ツール バーの使用」の章にある「グラフィックス モード ツールバー」トピックを参照して下さい)。現在のモード次第で、PC-DMISは、異なるメニューオプションを表示します。

要素ショートカット メニュー

このショートカットメニューにアクセスするには、グラフィックス表示ウィンドウ内で、要素のIDラベル、このショートカットメニューにアクセスするには、グラフィックス表示ウィンドウ内で、要素のIDラベル、寸法情報ボックス、点情報ボックス、要素の制御フレーム、またはCAD GD&Tのコールアウトを右クリックします。これをCAD GD&Tキャプションへ表示するには、このソフトウエアをテキストボックスモードにする必要があります。詳細情報については、「CAD表示の編集」章の「テキスト ボックスモード」トピックを参照して下さい。



注記: GD&T
コールアウトを右クリックすると、これら同じメニュー項目が多く表示されますが、この場合メニュー項目の表示または非表示しか機能しません。

以下のオプションが利用可能です。

IDを非表示
このメニューオプションを選択すると、グラフィックの表示ウィンドウにある単一のIDラベルが隠されます。隠されたラベルはまだ存在しており、単にビューから隠れているだけです。

ビューのIDを隠す
現在のビューのみで、選択した要素のIDラベルを隠します。ほかのビューでは表示されたまま残ります。

IDを表示するか、隠す
これらのサブメニューが選択されると、異なる要素のIDラベルを表示したり隠したりできます。以下のIDラベルの種類から表示、非表示にするものを選択できます。

- すべて -
  すべての要素のすべての要素ラベル、寸法情報、点情報、および要素制御フレームを非表示にします。

- **要素ラベル** - すべての要素にすべての要素のラベルを非表示にします。
- **ビューに可視の要素のラベル** -
  現在のビューに表示されるすべての要素にすべて要素のラベルを非表示にします
  。
- **寸法に関する情報** - すべての要素にすべての寸法に関する情報を非表示にします。
- **点に関する情報** - すべての要素にすべての点に関する情報を非表示にします。
- **要素制御フレーム** - すべての要素にすべての要素制御フレームを非表示にします。

IDラベルを隠すよう選択しても、IDラベルはまだ存在しビューから隠れるだけです。

すべてのビューでIDを表示
すべてのビューで、選択した要素のIDラベルを表示します。

ラベル処理
このサブメニューには[**ラベルの自動配置**]オプションが含まれています。このメニューオプションを使用すると、現在のビューのエッジ周辺で要素のIDラベルの自動配置を一括で実行できます。

要素を非表示
このオプションを選択すると、1つの要素を隠し、それをグラフィックの表示ウィンドウから削除します。要素はまだ存在しビューから隠れるだけです。

要素をすべて隠す
このオプションを選択すると、パート上の要素をすべて隠し、それらをグラフィックの表示ウィンドウから削除します。要素はまだ存在しビューから隠れるだけです。

要素をすべて表示
このオプションを選択すると、以前に隠されていた要素すべてをグラフィックの表示ウィンドウに表示します。

IDのリセット
このオプションは、1つの要素ラベルを要素の隣の元の位置に戻します。

IDをすべてリセット
このオプションを選択すると、すべてのIDラベルが各要素の隣にある元の位置に戻ります。

カーソルの移動先
編集ウィンドウ内で、編集ウィンドウのカーソルをこの要素のコマンドラインに移動するには、このメニューオプションを選択します。これは、編集ウィンドウのカーソルの位置のみに作用し、グラフィックの表示ウィンドウのプローブの位置は変わりません。

編集
このメニューオプションを選択すると、編集ウィンドウで基になるコマンドに該当するダイアログボックスが現れ、そのコマンドを編集するためにダイアログボックスを使用することができます。

背景色を変更
このオプションを選ぶと、[**ラベルオプションの変更**]ダイアログ
ボックスが表示されます。このダイアログ
ボックスを用いて、要素のIDラベル向けの背景色を変更することができます。全フィーチャー
ラベルをこの新しい色に変えるか、または、その時点でのタイプのラベルのみをこの新しい色に変えるか、選択することが可能です。次の3種類の異なるタイプのラベルが用意されています:要素ID ラベル、測定結果情報ボックス、および点情報ボックス。

[**デフォルト**]ボタンをクリックするとデフォルト設定を変更できます。

注記：これは要素コントロールフレームでは機能しません。

線色を変更
このオプションを選ぶと、[**ラベルオプションの変更**]ダイアログ
ボックスが表示されます。このダイアログ
ボックスを用いて、要素のIDラベル向けの境界線の色を変更することができます。すべての要素ラベルの境界で新しい色に変更するか現在のラベルの種類のみ変更するか選択できます。次の3種類の異なるタイプのラベルが用意されています:要素ID
ラベル、測定結果情報ボックス、および点情報ボックス。

[**デフォルト**]ボタンをクリックするとデフォルト設定を変更できます。

注記：これは要素コントロールフレームでは機能しません。

影を表示
このオプションを選ぶと、[**ラベルオプションの変更**]ダイアログ
ボックスが表示されます。このダイアログ
ボックスを用いて、要素のIDラベルの下に、小さい影を表示したり、隠したりすることができます。全タイプのラベルに影を付け加えるか、または、その時点でのタイプのラベルにのみ影を付け加えるか、選択することが可能です。次の3種類の異なるタイプのラベルが用意されています:要素ID ラベル、測定結果情報ボックス、および点情報ボックス。

[**デフォルト**]ボタンをクリックするとデフォルト設定を変更できます。

注記：これは要素コントロールフレームでは機能しません。

テキストボックスモードでの要素のショートカットメニューの追加

テキストボックスモードで、PC-DMIS標準要素のショートカットメニューにこれらの補充のオプションを追加します。以下が含まれます。

要素の制御フレームの作成
このオプションでは、選択された要素から位置要素の制御フレーム (FCF) の寸法を作成できます。**GD&T** ダイアログ ボックスが現れます。FCF 寸法の作成方法については、「要素制御フレームの使用」を参照してください。

寸法作成情報のボックス
このオプションを選ぶと、ハイライトされた要素から[寸法情報]テキストボックスが作成されます。[**寸法情報の編集**]ダイアログ ボックスが表示され、作成された寸法情報テキストボックスから利用可能な寸法が表示されます。

要素に寸法が1つも関連付けられていない場合、PC-DMISはその要素に対してデフォルトの位置の寸法を自動的に作成します(「旧式寸法の使用」章の「位置の測定」を参照してください)。この[**寸法情報の編集**]ダイアログボックスの使用に関する、より詳しい情報については、「レポートコマンドの挿入」章の「寸法情報ボックスの挿入」を参照して下さい。

点作成情報ボックス
のこのメニューオプションを選ぶと、ハイライトされた要素から[点情報]テキストボックスが作成されます。[**点情報の編集**]ダイアログ ボックスが現れ、[点情報]テキスト ボックスを作成可能な要素（及び、利用可能な測定結果)が表示されます。この[**点情報の編集**]ダイアログ ボックスを使用して[点情報]テキストボックスを作成することに関する、より詳しい情報については、「レポートコマンドの挿入」の章にある「点情報ボックスの挿入」を参照して下さい。

IDを表示
選択した要素のラベルに非表示を解除します。(これは単にラベルを隠して、要素の近くで右クリックすれば、利用可能です。）

CAD GD&T 表示フィルタ
このメニューオプションでは、どのCAD GD&T キャプションを表示するかフィルタリングすることができます。「CAD表示の編集」の章にある「CAD GD&T 引き出し線を使用した操作」を参照して下さい。

これらの新しいオプションにアクセスするには:

1. **テキストボックスモード**アイコンを選択します。詳細情報については、「CAD表示の編集」章の「テキスト ボックス モード」トピックを参照して下さい。

2. グラフィックの表示ウィンドウ内で、要素または要素のIDラベルを右クリックし、ショートカットメニューを表示します。

テキストボックスモードでの測定結果/点情報メニュー

テキストボックスモードの時に、寸法情報ボックスまたは点情報ボックスを右クリックすると、PC-DMIS標準要素のショートカットメニューに次の2つのオプションを追加します:

編集
このオプションでは、選択した [寸法情報] または [点情報]
テキストボックスを編集できます。若干変更された **[寸法情報の編集]** または **[点情報の編集]** ダイアログ ボックスが開きます。ダイアログ
ボックスの下部に並んだ標準のボタンに加えて、**[すべてに適用]** ボタンが利用可能です：

すべてに適用をクリックすると、ダイアログボックスで行われた変更を*すべ*ての寸法情報やポイント情報ボックスに適用されるようにします。

> **注：**変更情報ボックスに元から作られた変更のみはすべての寸法情報や点情報ボックス全体に適用されます。既に別の情報ボックスと異なっているオリジナルの情報ボックスの設定は他の情報ボックスには適用されません。

より詳しい情報については、「レポート
コマンドの挿入」の章の「測定結果情報ボックスの挿入」を参照して下さい。

削除
このメニューオプションを選ぶと、選択された寸法または点情報テキストボックスを削除することができます。編集ウィンドウに対応のPOINTINFO または DIMINFO
コマンドも削除されます。

これらの新しいオプションにアクセスするには:

1. **[テキストボックスモード]**アイコンを選択します(「CAD表示の編集」の章にある「テキストボックスモード」を参照して下さい)。

2. グラフィックの表示ウインドウの**寸法情報**または**点情報**ボックスを右クリックします。

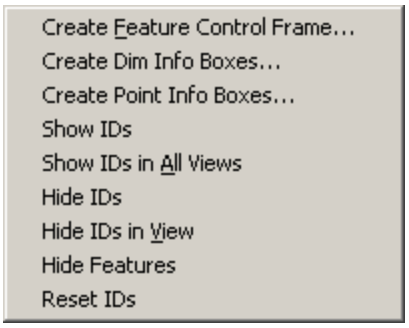
ボックス選択ショートカット メニュー

このショートカットメニューは**テキストボックスモード**でのみ使用できます。このメニューにアクセスするには:

1. [**テキストボックスモード**]アイコンを選択します(「CAD表示の編集」の章にある「テキストボックスモード」を参照して下さい)。

2. 1つかそれ以上の要素をボックス選択します。PC-DMISは、そのボックス内のグラフィックス
フィーチャーかフィーチャーIDをすべて選択します。

次のオプションを持つショートカットメニューが現れます:



以下のオプションが利用可能です。

要素の制御フレームの作成
このオプションでは、選択された要素から位置要素の制御フレーム (FCF)
の寸法を作成できます。**GD&T** ダイアログ ボックスが現れます。FCF
寸法の作成方法については、「要素制御フレームの使用」を参照してください。

寸法情報ボックスを作成
このメニュー オプションを選ぶと、選択した要素から[測定結果情報]テキスト
ボックスが作成されます。

ハイライトした要素のうちの1つ向けに、[**測定結果情報の編集**]ダイアログ
ボックスが表示され、最初に作成できた測定結果情報ボックスから利用可能な測定結果が表示されます。

[**測定結果情報の編集**]ダイアログ内のご希望のオプションを選んだ後に、[**OK**]または[**作成**]
ボタンををクリックすると測定結果情報ボックスが作成されます(編集する場合は[**適用**]
ボタンを押します)。

[**測定結果情報の編集**] ダイアログ
ボックスで選択された測定結果を用いて、最初の測定結果情報ボックスが作成されます。

各要素に関連付けられたすべての測定結果から、後続の情報ボックスが作成されます。

要素に寸法が1つも関連付けられていない場合、その要素に対してはデフォルトの位置の寸法が自動的に作成されます(「旧式寸法の使用」章の「位置の測定」を参照してください)。この[**寸法情報の編集**]ダイアログ
ボックスの使用に関する、より詳しい情報については、「レポートコマンドの挿入」章の「寸法情報ボックスの挿入」を参照して下さい。

ポイント情報ボックスを作成
このメニュー オプションを選ぶと、ハイライト表示さた要素から[点情報]のテキスト
ボックスが作成されます。ハイライト表示された要素向けに[**点情報の編集**]ダイアログ
ボックスが現れ、[点情報]テキスト
ボックスを作成可能な要素（及び、利用可能な測定結果)が表示されます。

[点情報の編集]ダイアログ内のご希望のオプションを選んだ後に、情報ボックスの作成のために**OK**か、または、**作成**ボタンのいずれかを選択して下さい (編集する場合は**適用**
ボタンを押してください)。

[**点情報の編集**] ダイアログ
ボックスで選択された要素または測定結果を用いて、最初の情報ボックスが作成されます。各要素に関連付けられたすべての測定結果と要素自体から、後続の点情報ボックスが作成されます。すべての測定結果と要素のヒットに対する点情報ボックスが作成されます。この[**点情報の編集**]ダイアログ
ボックスを使用して[点情報]テキストボックスを作成することに関する、より詳しい情報については、「レポートコマンドの挿入」の章にある「点情報ボックスの挿入」を参照して下さい。

IDラベルの表示、非表示
これらのメニューオプションの1つを選択すると、選択されたすべての要素を表示、または非表示します。IDラベルを隠すよう選択しても、IDラベルはまだ存在しビューから隠れるだけです。

IDラベルをすべてのビューに表示
このオプションを選ぶと、利用可能なグラフィックス表示ウィンドウの画像区画のすべてで、選択された全IDラベルが表示されます。

IDラベルをビューから隠す
このオプションを選ぶと、その時点でのグラフィックス表示ウィンドウの画像区画において、選択された全IDラベルを隠します。

要素の隠し
このオプションを選択すると、パート上で選択した要素すべてを隠し、それらをグラフィックの表示ウィンドウから削除します。要素はまだ存在しビューから隠れるだけです。

IDラベルのリセット
このオプションを選択すると、選択したIDラベルがすべて各要素の隣にある元の位置に戻ります。

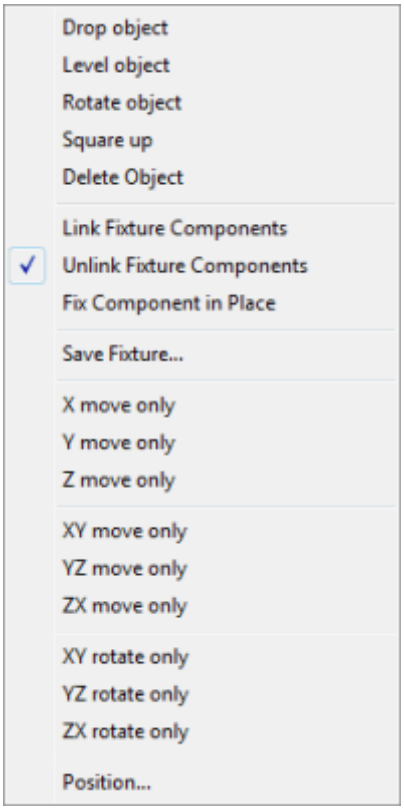
クイック取付具ショートカット メニュー

このショートカットメニューは、**クイック取付具**モードでのみ使えます(「ハードウェアの定義」の章の「クイック取付具の挿入」を参照してください)。このメニューにアクセスするには:

1. **[グラフィックモード]**ツールバーから **[クイック取付具]** アイコン
を選択するか、メインメニューより **[オペレーション | グラフィックの表示ウィンドウ | 画面モードの変更 | クイック取付具モード]** オプションを選択します。

2. グラフィックス表示ウィンドウ内に既に挿入されている、クイック取付具のオブジェクトを右クリックして下さい。

次のオプションを持つショートカットメニューが現れます:



クイック取付具ショートカット メニュー

以下のオプションが利用可能です。

オブジェクトをドロップ
このオプションを選択すると、選択したクイック取付具がグラフィックの表示ウィンドウ内のどこにあろうが下にドロップされます。Z方向に何も無い場合、何も起こりません。何か存在する場合、取付具は下にあるオブジェクトに接触するまでドロップします。

オブジェクトの調整
これにより、右クリックされた場所の垂直面ベクトルが取得され、それが測定機の座標システムを用いて平行配置されます。

オブジェクトの回転
これにより、右クリックした点が取得されそれにもっとも近いエッジの上にドロップされます。次にドロップ点で曲線に正接するベクトルを直角に配置します。回転は2次元で直角に行われ、現在の法線ビューを見下ろす形となります。

正面化
これにより、選択したクイック取付具が直角に配置され、その軸がCAD軸に平行となります(最小の変更)

オブジェクト削除
現在選択されているクイックフィクスチャオブジェクトを削除するには、このオプションをクリックします。

取付具コンポーネントのリンク
これは、画面上のすべての取付具コンポーネントをグループ化し、1つの取付具をドラッグしたり回転することですべてまとめてドラッグまたは回転することができます。

取付具コンポーネントのリンクを解除
取付具コンポーネントのリンクを解除し、個別に操作できるようにします。

コンポーネントの位置を固定
リンクした取付具コンポーネントがある場合、この選択肢を用いてリンクしたコンポーネントのセットの中で選択したコンポーネントの位置を固定することができます。たとえリンクしたセットの中の他のコンポーネントを移動してもコンポーネントは現在の位置に固定されます。

取付具の保存
このメニュー項目を選択すると、[**名前を付けて保存**]ダイアログ
ボックスが表示され画面上の取付具要素を保存することができます。画面上に複数の取付具がある場合、PC-
DMISはそれらすべてを1つのセットとして保存します。保存された取付具は、今後の利用のために[**クイック取付具**]ダイアログ ボックスの展開可能な**USER** ツリーに保存されます。

X移動のみ
このメニュー項目を選択して取付具をドラッグすると、X軸に沿ってのみ移動します。

Ｙ移動のみ
このメニュー項目を選択して取付具をドラッグすると、Ｙ軸に沿ってのみ移動します。

Ｚ移動のみ
このメニュー項目を選択して取付具をドラッグすると、Ｚ軸に沿ってのみ移動します。

XY移動のみ
このメニュー項目を選択して取付具をドラッグすると、X軸およびY軸に沿ってのみ移動します。

YZ移動のみ
このメニュー項目を選択して取付具をドラッグすると、Ｙ軸およびＺ軸に沿ってのみ移動します。

ZX移動のみ
このメニュー項目を選択して取付具をドラッグすると、Ｚ軸およびＸ軸に沿ってのみ移動します。

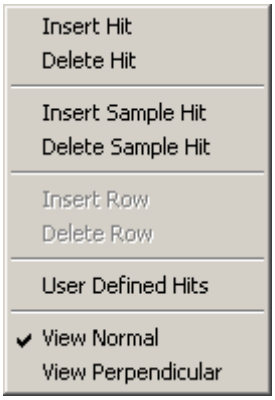
XY回転のみ
このメニュー項目を選択すると、回転はXY平面でのみ行われます。CTRLを押しながら取付具をドラッグすると回転できます。このオプションをもう一度選択すると選択がクリアされます。

YZ回転のみ
このメニュー項目を選択すると、回転はYZ平面でのみ行われます。CTRLを押しながら取付具をドラッグすると回転できます。このオプションをもう一度選択すると選択がクリアされます。

ZX回転のみ
このメニュー項目を選択すると、回転はZX平面でのみ行われます。CTRLを押しながら取付具をドラッグすると回転できます。このオプションをもう一度選択すると選択がクリアされます。

位置
このメニュー項目を選択すると[**クイック取付具**]位置のダイアログ
ボックスが現れ、サポートされる取点具に含まれるCAD要素を使って作業することが可能となります。詳しくは「ハードウェアの定義」の章にある、「[クイック取付具位置]ダイアログボックスの使用」を参照してください。

[自動パス ライン要素] ショートカット メニュー



このショートカットメニューにアクセスするには、**要素の自動作成**ダイアログ ボックス (**挿入 | 要素 | 自動 | <要素タイプ>**)内の**パスの表示を切り替え**ボタンを選択します。

以下のオプションが利用可能です。

ヒットを挿入
自動要素に追加のヒットを挿入します。

ヒットを削除
自動要素から選択したヒットを削除します。

サンプル ヒットを挿入
自動要素にサンプルヒットを挿入します。

サンプル ヒットを削除
自動要素から選択したヒットを削除します。

行を挿入
円筒や円錐など、複数行のヒットを使用する要素を使って作業している場合、別のヒットの行を挿入します。

行の挿入
円筒や円錐など、複数行のヒットを使用する要素を使って作業している場合、選択したヒットの行を挿入します。

ユーザ定義のヒット
マウスを用いて、ヒットや経路に手動で変更する時には、常に、このメニュー
オプションが自動的に選択されます。

その後、このメニューを選択解除すると、PC-
DMISは、これまでの変更内容を廃棄し、それ以前の状態に戻します。

それに加え、このオプションをヒット用に選択し、それから、[**横から垂直に表示**]を用いて、
そのフィーチャーを横から垂直に表示する場合、その特定のヒットの深さや高さを調整することが可能です。

ビューノーマル
これは要素のCADビューを真上からのビューに変更します。

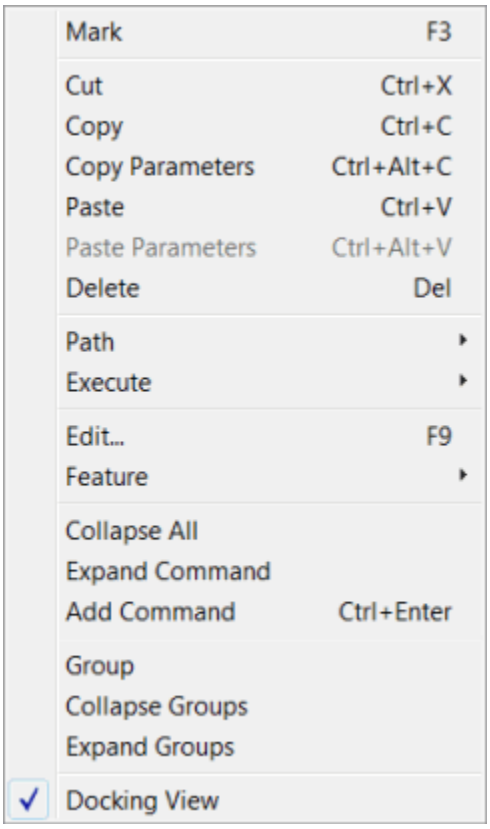
垂直ビュー
これは、要素のCADビューを横方向からのビューに変更し、要素の深さを定義したり追加レベルのヒットを追加する場合に理想的です。

編集ウィンドウでのショートカット メニュー

PC-DMISの編集ウィンドウは、選択された編集ウィンドウ モード次第で、以下のショートカット メニューを含みます。

要約モード コマンド ショートカット メニュー

ユーザが編集ウインドウの要約モード
(「編集ウインドウの使用」の章の「要約モードを使用した操作」を参照)
でコマンド項目を選択して、コマンド項目の上で右クリックすると、コマンドショートカット・メニューが現れます。このメニューには、以下のオプションがあります:



要約モード コマンド ショートカット メニュー

以下のオプションが利用可能です。

マーク （ショートカット キーのストローク : F3）

このオプションを選ぶと、そのオブジェクトを実行用にマークするか否か、マークの有無をトグル操作できます。

切り取り (ショートカット キーのストローク : Ctrl-X)

このオプションを選ぶと、選択されたコマンドがクリップボードから切り取られ、測定ルーチンから除去されます。

切り取り (ショートカット キーのストローク : Ctrl-C)

このオプションを選ぶと、選択されたコマンドがクリップボードにコピーされます。

貼り付け (ショートカット キーのストローク : Ctrl-V)

このオプションを選ぶと、以前にクリップボードから切り取られた、または、コピーされたコマンドが、選択されたコマンドの下に貼り付けられます。

削除 (ショートカット キーのストローク : Del)

このオプションを選ぶと、選択されたコマンド、及びすべてのサブコマンドが、測定ルーチンから削除されます。

パス | パスライン

このオプションは、選択した要素の範囲のみにパスラインを表示します。「CAD表示の編集」の章の「パスラインの表示、アニメーション、および移動」を参照してください。

パス | 衝突の検出...

このオプションはさまざまな選択要素のために衝突検出を実行します。「CAD表示の編集」の章の「衝突の検出」を参照して下さい。

パス | ClearanceCube | オフ

ClearanceCube 要素をオフにします。

パス | ClearanceCube | オン

ClearanceCube 要素をオンにします。

パス | ClearanceCube | 開始面

このオプションでは、ユーザーは開始面を選択してClearanceCubeを整列することできます。オプションは-X, +X, -Y, +Y, -Z, +Z およびオフです。

パス | ClearanceCube | 終了面

このオプションでは、ユーザーは終了面を選択してClearanceCubeを整列することできます。オプションは-X, +X, -Y, +Y, -Z, +Z およびオフです。

実行 | マーク (ショートカット キーのストローク: F3)

このオプションを選ぶと、そのオブジェクトを実行用にマークするか否か、マークの有無をトグル操作できます。

実行 | 開始点として設定

このオプションは、ルーチンの開始点を(可能な場合)カーソルの位置に設定します。

実行 | カーソルからの実行

このオプションは、カーソルの現在位置の点からルーチンを開始します。

実行 | ブロック実行

このオプションは、指定されたコードブロックを実行します。

実行 | BreakPoint (ショートカット キーのストローク: Ctrl-B)

このオプションを選択すると、カーソルの現在位置にブレークポイントが挿入されます。

編集 (ショートカット キーのストローク: F9)

このオプションは、現在のコマンド･オブジェクトのダイアログボックスが表示されます。

要素 | CAD からの理論値をアップデート

このオプションは、測定ルーチンの理論値をインポートされた CAD 理論値でアップデートします。

要素 | 公称値探索の上書き

このオプションを選択すると、学習モードと実行モード中のPC-DMISのデフォルトの公称値検索機能を上書きします。詳しい情報については、「測定ルーチンの編集」の章にある、「検索された公称値を上書き」を参照して下さい。

要素 | 測定値を理論値にリセット

このオプションはすべての測定値をプログラムの理論値に設定します。

要素 | CAD で中心設定

このオプションはグラフィックの表示ウィンドウで、パートのCADモデルを必要に応じて現在の要素の中心に移動、回転します。いったん中心に置かれると、要素は２、３回点滅します。この移動および回転操作は元に戻すことはできません。

要素 | CAD でハイライト

このオプションはグラフィックス表示のウインドウで選んだ要素を強調します。もしそれが隠されるなら、それは同じく要素ラベルを表示して強調します。第２の要素を強調することはハイライトから最初の要素を取り去ります。

要素 | CAD でハイライト解除

このオプションは上記の **CADでハイライト** メニュー項目を使って作られたハイライトされた CAD 要素をクリアします。

要素 | 要素へプローブを移動

このオプションは選別された要素のためにグラフィックス表示ウインドウでアニメのプローブをCAD要素に移動します。ユーザが最初要素コマンドを選択するなら、それは選択だけに利用可能になります。他のコマンドは支援されません。

要素 | SPH_Tip1 へ移動

*このメニュー オプションは、自動フィーチャーを右クリックした場合にのみ、表示されます。*選択した自動要素の中心へプローブを移動します。これは、**自要素の自動作成**ダイアログボックスの**移動先**ボタンと同じように機能します (**挿入 | 要素 | 自動 | <要素タイプ>**)。

注記:プローブの衝突が無視されたクリアランス面により発生する可能性があるので、このオプションを使用するときは注意してください。

要素 | SPH_TIP1 をテスト

*このオプションは、自動要素を右クリックした場合のみに表示されます。*これは、選択された自動要素のテスト実行を行います。これは、**自動要素**ダイアログボックスにある**テスト**ボタンと同じように機能します。

> **注記:**プローブの衝突が無視されたクリアランス面により発生する可能性があるので、このオプションを使用するときは注意してください。

すべてを縮約

このオプションを選ぶと、拡大された項目すべてが縮約されます。

コマンドを拡大

このオプションを選ぶと、その時点でのコマンドラインを拡大し、選択されたコマンドに関連したデータ項目、または、グループ項目を表示します。

追加コマンド (ショートカット キーのストローク: Ctrl-Enter)

このオプションを選ぶと、アルファベット順のスクロール可能な一覧から、編集ウィンドウにコマンドを追加することができます。

ステップ 1 ：コマンドの最初の数文字を入力することによって、リストをナビゲートします。PC-DMISは自動的にそのコマンドに切り替えします。

ステップ 2: 一覧から、そのコマンドを選んで下さい。

ステップ 3: 「CTRL + ENTER」か、または、「ENTER」のいずれかのキーを押し、編集ウィンドウ内にその新コマンドを配置して下さい。

「CTRL + ENTER」を押すと、ショートカット メニューを開くために使用されたコマンド ブロック の後に当コマンドを配置します。

「Enter」を押すと、ショートカット メニューを開くために使用されたコマンド ブロック の中に当コマンドを配置します。Enterキーの使用がこのように機能するのは、PC-DMISが別のコマンド ブロック内への挿入を許容する、タイプのコマンドを追加する場合のみです。それ以外の場合には、PC-DMISが、それをその時点のコマンドの後に挿入します。

グループ化

このオプションを選ぶと、ユーザー定義のグループに、選択された一連のコマンドの一覧を挿入します。

グループを縮約

このオプションを選ぶと、拡大されたユーザー定義のグループすべてを縮約します。その他の拡大されたグループは、拡大されたまま留まります。

グループを展開

このオプションは、すべての折りたたまれたユーザ定義のグループを展開します。他の折りたたまれたアイテムが折りたたまれたままにしていください。

画像をドッキング

このオプションを選ぶと、編集ウィンドウがドッキングするか、ドッキング解除をするかを決めます。

このオプションを選択解除すると、編集ウィンドウは、PC-DMISの旧バージョンの場合と同じように作動し、グラフィックス表示ウィンドウ上で浮動表示されます。

このオプションを選ぶと、編集ウィンドウをグラフィックス表示ウィンドウの側面か最上部か、または、底部にドッキングすることができます。

データ項目ショートカット メニュー

コマンドを拡張し、編集ウィンドウのデータ項目を右クリックすると、データ項目のショートカットメニューが表示されます。このショートカットメニューには、以下のオプションがあります:

編集 | 値/式テキスト

値をとる編集ウィンドウのフィールドでは、アイテムが編集できればは、これは現在の項目を編集します。データ項目が切り替えアイテムであれば、トグルのリストは現れ、さもないと、現在の値を編集するボックスが表示されます。

編集 | 式ビルダの使用

項目が編集可能な場合、[式ビルダ]ダイアログボックスが表示され選択したフィールドで式を作成することができます。

コピー | 値テキスト

値を取る編集ウィンドウフィールド上では、このオプションはデータ項目の値のテキストをクリップボードに複製しします。例えば、「ID : CIR2」フィールドの値テキストがコピーされると、これは「 CIR2 」テキストをクリップボードにコピーします。

コピー | 式テキスト

式を取る編集ウィンドウフィールド上では、このオプションは現時点の式テキストをクリップボードに複製します。例えば、5

(2+3)という値が表示された場合は、この値は(2+3)式から取得されたことと意味し、これは「2 + 3 」をクリップボードにコピーします。

コピー | 説明

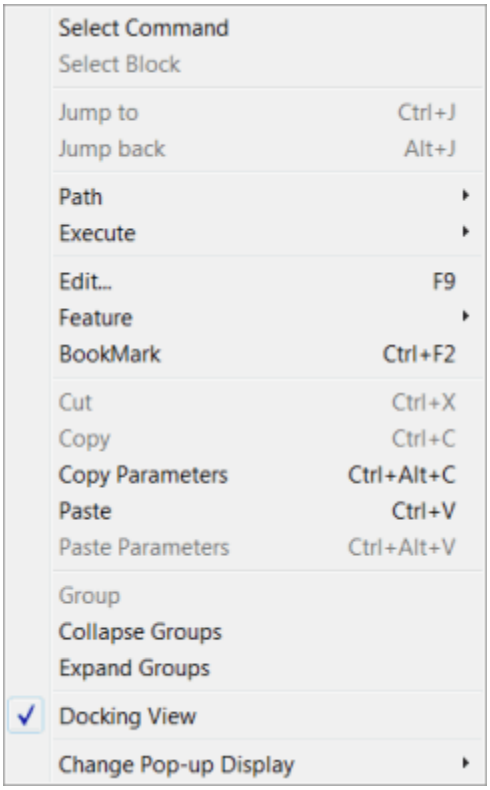
選択されたオブジェクトが編集できれば、このオプションは、そのオブジェクトの編集フィールドを表示します。例えば、「ID : CIR2」フィールドの値テキストがコピーされると、これは「 ID 」テキストをクリップボードにコピーします。

貼り付け

コピーされた値、式テキスト、または項目の説明を新しい位置へ貼り付けます。

コマンド モード ショートカット メニュー

次のショートカットメニューオプションはPC-DMISがコマンドモードの時に利用可能です。これらのモードに関する、より詳しい情報については、「編集ウィンドウの使用」の章にある「コマンド モードでの作業」を参照して下さい。



以下のオプションが利用可能です。

コマンドの選択

このオプションはマウスが所在位置のコマンドを強調表示します。

ブロックの選択
マウスが開始または終了ブロックオブジェクトの上にある場合、それはブロック全体を選択します。

<要素>にジャンプ（ショートカットキーストローク：Ctrlキーを押しながらJ）
現在のコマンドから参照された要素IDにこのオプションのジャンプ：

ジャンプ戻し(ショートカットキー:Alt-J)
このオプションを選択すると、[ジャンプ先]オプションが選択された前においたコマンドに戻ります。

パス | パス線
このオプションは、選択した要素の範囲のみにパス線を表示します。「CAD
表示の編集」の章の「パスラインの表示、アニメーション、および移動」を参照してください。

パス | 衝突の検出
このオプションはさまざまな選択要素のために衝突検出を実行します。「CAD表示の編集」の章の「衝突の検出」を参照して下さい。

パス | ClearanceCube | 開始面
ClearanceCube | 開始面 オプションでは、要素の測定前に PC-DMISが移動する
ClearanceCube 面を決定します。利用可能な設定は -X、+X、-Y、+Y、-Z、+Z
およびオフです。

パス | ClearanceCube | 終了面
ClearanceCube | 終了面 オプションでは、要素が測定された後で PC-DMISが移動する
ClearanceCube 面を決定します。利用可能な設定は -X、+X、-Y、+Y、-Z、+Z
およびオフです。

実行 | マーク(ショートカット キー F3)
このオプションを選ぶと、そのオブジェクトを実行用にマークするか否か、マークの有無をトグル操作できます。マークに関する詳しい説明については、「測定ルーチンの編集」の章にある「マーク」を参照して下さい。

実行 | 始点としてセット
このオプションを選ぶと、[ファイル | 一部実行 | 開始点からの実行]メニュー
オプションを選んだ時に、ルーチンの実行を開始する、開始位置が決定できます。「測定ルーチンの編集」の章にある「開始点の設定」を参照して下さい。

実行 | カーソルから実行
このオプションを選択すると、編集ウィンドウの現在の位置の挿入点から実行を開始します。

実行 | ブロークの実行
このオプションを選択すると、現在マークされたコマンドブロックが実行されます。

実行 | ブレークポイント
このオプションを選択すると、カーソルの位置にブレークポイントが挿入されます。ブレークポイントのより詳しい説明については、「測定ルーチンの編集」の章にある「ブレークポイントの使用」を参照して下さい。

編集(ショートカットキー・ストローク:F9)
これはカーソルが位置するコマンドを編集することができるダイアログボックスを開きます。

要素 | CADから公称値を更新
このオプションは、ルーチン理論値をインポートされた CAD
理論値でアップデートします。

要素 | 公称値検索を上書き
このオプションを選択すると **[公称値検索を上書き]** ダイアログ
ボックスにアクセスし、編集ウィンドウで右クリックした点に対するデフォルトの公称値探索の動きを上書きできます。詳しい情報については、「測定ルーチンの編集」の章にある、「検索された公称値を上書き」を参照して下さい。

要素|測定値を公称値にリセットする
このオプションはルーチンの公称値にすべての測定値を設定します。

要素 | CADで中央に配置
このオプションはグラフィックの表示ウィンドウで、パーツのCADモデルを必要に応じて現在の要素の中心に移動、回転します。いったん中心に置かれると、要素は２、３回点滅します。この移動および回転操作は元に戻すことはできません。

要素| CADに強調表示
このオプションは、グラフィックディスプレイウィンドウで選択された要素を強調しています。もしそれが隠されるなら、それは同じく要素ラベルを表示して強調します。第２の要素を強調することはハイライトから最初の要素を取り去ります。

要素 | CADでハイライト解除
このオプションは上記の
CADでハイライトされたメニュー項目で作られたハイライトされた CAD
要素をクリアします。

要素 | プローブを要素に移動
このオプションは選別された要素のためにグラフィックス表示ウインドウでアニメのプロー

ブをCAD要素に動かします。ユーザが最初要素コマンドを選択するなら、それは選択だけに利用可能になります。他のコマンドは支援されません。

要素 | テスト<要素>
このメニュー オプションは、自動このメニュー
*オプションは、自動要素を右クリックした場合にのみ、表示されます。*これは、選択された自動要素のテスト実行を行います。これは、**自動要素**ダイアログボックスにある**テスト**ボタンと同じように機能します。

このオプションを選んだ場合、空き平面が無視されるために、プローブが衝突する可能性があるので、注意すべきです。

要素 | 移動先<要素>
このメニュー オプションは、自動このメニュー
*オプションは、自動要素を右クリックした場合にのみ、表示されます。*選択した自動要素の中心へプローブを移動します。これは、**自要素の自動作成**ダイアログ
ボックスにある**移動先**ボタンと同じように機能します。

このオプションを選んだ場合、空き平面が無視されるために、プローブが衝突する可能性があるので、注意すべきです。

ブックマーク（ショートカットキーストローク： Ctrl―F2
このオプションはカーソルの位置でブックマークを挿入します。ブックマークの詳しい説明については、「測定ルーチンの編集」の章にある「ブックマークの使用」を参照して下さい。

切取り（ショートカット キー：Ctrl-X）
このオプションを選ぶと、編集ウィンドウで選択したテキストが切り取られクリップボードにコピーされます。編集ウィンドウでの切り取りについて詳しい説明は、「測定ルーチンの編集」の章にある「切り取り」を参照して下さい。

コピー（ショートカット キー：Ctrl-C）
このオプションを選ぶと、編集ウィンドウで選択されたテキストが切り取られクリップボードにコピーされます。編集ウィンドウでの複製について詳しい説明は、「測定ルーチンの編集」の章にある「コピー」を参照して下さい。

ペースト（ショートカット キー：Ctrl-V）
このオプションを選ぶと、クリップボードから編集ウィンドウのカーソル位置へテキストが貼り付けられます。編集ウィンドウでの貼り付けについて詳しい説明は、「測定ルーチンの編集」の章にある「貼り付け」を参照して下さい。

グループ
このオプションを選択すると、選択された隣接するコマンドのリストをユーザー定義のグループに挿入します。

グループを分解
このオプションを選ぶと、拡大されたユーザー定義のグループすべてを分解します。その他の拡大されたグループは、拡大されたまま留まります。

グループを展開
このオプションは、すべての折りたたまれたユーザ定義グループを展開します。他の折りたたまれたアイテムが折りたたまれたままにしていください。

画面をドッキングする
「要約モードのコマンド ショートカット メニュー」に提供された説明を参照して下さい。

ポップアップ表示の変更 | 式の値

1. **[式の値]**を選択します。
2. カーソルを式の上に少しの間置きます。
3. 小さなポップアップウィンドウが現れ、式の現在の値が表示されます。

ポップアップ表示の変更| データタイプの情報

1. **[データ種類の情報]**を選択します。
2. カーソルをデータフィールドの上に少しの間置きます。
3. 小さなポップアップウィンドウが現れ、データ型の説明、データ型の番号、および型インデックスを含むデータフィールド情報を表示します。

このポップアップウィンドウに表示される情報はGETTEXT
式で使用されます。「入力式及び変数の使用」の章を参照して下さい。

ポップアップ表示の変更 | コマンド情報

1. **[コマンド情報]**を選択します。
2. カーソルを編集ウィンドウの任意のコマンドの上に少しの間置きます。

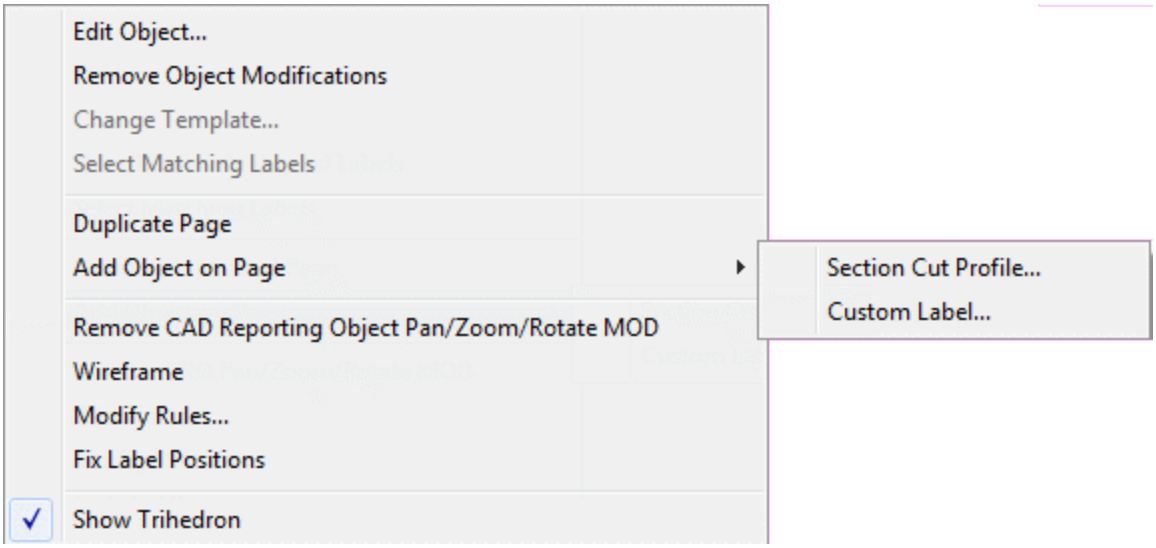
小さなポップアップウィンドウが現れ、コマンドの説明およびコマンドタイプの番号を表示します。このポップアップウィンドウに表示される情報は GETCOMMAND
式で使用されます。「入力式及び変数の使用」の章を参照して下さい。

オブジェクト
このメニューオプションは編集ウィンドウに外部オブジェクトを挿入するまでは利用できません。これを行う方法についての説明は、「外部要素の追加」の章にある「外部オブジェクトの挿入」を参照して下さい。

編集ウィンドウに追加された外部オブジェクトを選択し、それを右クリックすると、このメニューがその特定のオブジェクトに固有のオプションを反映するよう変更されます。これらには、オブジェクトを開く、オブジェクトの編集、または単にオブジェクトのプロパティの変更などのオプションも含まれます。

レポート ウィンドウでのショートカット メニュー

レポート ウィンドウを右クリックすると、PC-DMISは、レポート
ウィンドウ内でのオブジェクトの表示方法を左右する、メニュー項目を持つショートカット
メニューを表示します。あるメニュー項目は、レポート
ウィンドウ内で、特定のオブジェクトを右クリックした場合にのみ表示されます。レポート
ウィンドウのショートカット
メニューからアクセスできる、各種のメニュー項目が下記の表で記述されています:



オブジェクトの編集
このオプションを選ぶと、レポート
ウィンドウ内のその時点でのオブジェクトを、デフォルトの状態から変更します。

- レポート ウィンドウ内で、ラベル
  オブジェクト上を右クリックすると、**ラベルの属性** ダイアログ
  ボックスが表示され、それを用いて、ラベルを変更することができます。

- テキスト レポート オブジェクト
  (本質的に、レポートの末尾のテキストの空白部分、または、表以外の報告テキスト部分)上を右クリックすると、**レポート** ダイアログ
  ボックスが表示され、それを用いると、レポートに掲載する内容を決めることができます。

> **ヒント: シフト**を押して、いずれかのラベル
> オブジェクトを右クリックすると、**レポート**ダイアログ ボックスが表示されます。

詳しい情報については、「測定結果のレポート」の章にある「レポート
ウィンドウの内容変更」を参照して下さい。

選択されたらべるを隠す
このオプションを選ぶと、CadReportObjectと共に使用されて、選択されたラベルすべてを隠します。隠す予定のラベルを選択し、その後、このメニュー項目を表示するために、選択されたラベルのひとつを右クリックして下さい。ご希望のラベルの周りをマウスを用いてドラッグすることによって、あるいは、Ctrl
キーを押し続け、ご希望のラベルをクリックすることによって、一度に複数のラベルを選択できます。

隠されたラベルを表示
このオプションを選ぶと、隠されたラベルがすべて表示されます。このメニュー項目を表示するには、CADレポート オブジェクトを右クリックして下さい。

オブジェクトを取り除く
このオプションを選ぶと、選択されたラベル
オブジェクト、あるいは、**ページにオブジェクトを追加**サブメニューを用いて追加された、切断側面図オブジェクトを除去します。

> 選択されたオブジェクトの除去を試みる時、**削除**キーを使用するべきではなく、削除キーを使用すると、かわりに編集ウィンドウ内の選択されたコマンドを削除することになります。

オブジェクト変更を取り除く
このオプションを選ぶと、**オブジェクトの編集**メニュー項目を用いての変更内容、または、対応するオブジェクトのサイズ変更や位置変更をすべて取り除き、右クリックされたオブジェクトが初期の状態に戻ります。

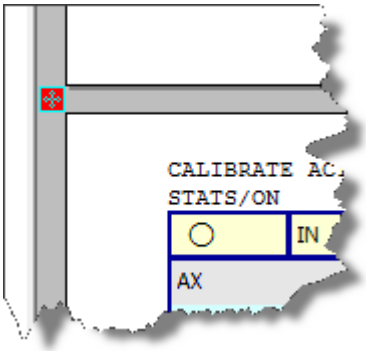
テンプレートの変更
このオプションを選ぶと、**開く** ダイアログ ボックスが表示され、
それを用いて、表示用のテンプレートを変更し、根拠をなすコマンドからのデータの書式整形を行います。そのコマンドと共に機能するよう特定された、テンプレートのみが、ダイアログ ボックス内に表示されます。

このオプション(**Select Matching Labels**メニューの品目を使用したなど後の)を使用する場合に、ユーザが複数のラベルを選択させるなら、PC-DMISはすべての選択されたラベルにラベル変化を適用します。

一致ラベルを選択
このオプションは、ラベルを右クリックした時に現れます。このオプションはユーザがクリックしたラベルと同じラベルテンプレートを使用する現在のページにあるすべてのラベルを選択します。

ページの複製
このオプションを選ぶと、右クリックされたページと同一のページが、即座に、その時点でのページに続いて作成されます。これは、一ページに収まらず、複数ページにまたがるラベルの構成に役立つ可能性があります。

複製されたページの左上に赤い十字のアイコンが表示されます。

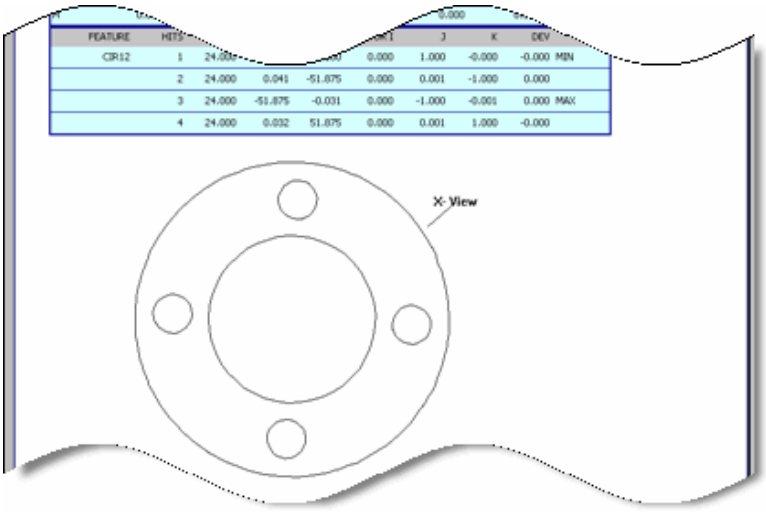


複製されたページであることを示す、十字アイコンの例

複製されたページを右クリックし、**複製ページの除去**を選択することにより、それを取り除くことができます。

複製されたページを取り除く
このオプションは、以前に複製されたページを右クリックした場合にのみ、メニュー内に表示されます。それを選択すると、複製ページがレポートから取り除かれます。

ページのオブジェクトを加える| 切断面輪郭図
このオプションはパーツモデルの切断面輪郭図をレポートに挿入します。



切断面の輪郭例

このオプションを選んだ後、マウスを使用してレポート
ウィンドウ内にボックスをドラッグし、切断面のプロファイルを挿入します。より詳しい説明については、「測定結果のレポート」の章にある「切断オブジェクト」を参照して下さい。

この方法を用いて、内部が見えるよう一部が切断された、複数の画像をレポート内に挿入することが可能です。

ページのオブジェクトを追加 | カスタム ラベル
このメニュー項目を用いて、アクティブ レポート内に、カスタム ラベル
オブジェクトをすばやく挿入できます。この形式のラベル挿入プロセスは、規則系統図エディタとは全く連結していません。

このメニュー項目を選び、それから、レポート
ウィンドウ内でボックスをドラッグして描いて下さい。**開く** ダイアログ
ボックスが表示され、それを用いて、選択されたラベル
テンプレートを、レポートのその時点のページ内にすばやく挿入することができます。

CADレポートオブジェクトの移動/ズーム/回転 MODを取り除く
このメニュー項目では、CADReportObject
に加えたパン、ズーム、および回転の変更のみを削除できます。その他の変更(切断面、様々なラベルの定義、立体またはワイヤ表示など)は影響を受けませtん。

らベルの選択
このメニュー項目はユーザの報告で異なったセクション間に容易に複数のラベルを選択することを許します。

この項目を選択すると、PC-DMISは[**ラベルの選択**]ダイアログボックスを表示します。このダイアログ ボックスには CADReportObject と結び付けられているレポートのラベルが表示されます。このダイアログから任意のラベルを選択し、ダイアログボックスの[**OK**]をクリックするとPC-DMISはレポート内で対応するラベルを選択します。

ダイアログボックスに表示されるラベルはフィーチャータイプ、寸法タイプ、またはすべてのコマンドで制限できます。

詳しい情報については、「測定結果のレポート」の章にある「レポート ウィンドウの内容変更」を参照して下さい。

ワイヤー・フレーム
このメニュー項目は、モデルをワイヤーフレームまたは立体として表示することによって、選択された CADReportObjectの表示を切り替えします。このメニュー項目は、レポート内のCADレポート オブジェクトを右クリックした場合にのみ、表示されます。

ルールを修正
このメニュー項目は**ルール ツリー エディタ**ダイアログボックスの簡易型のバージョンを持って来ます。ユーザが、規則をオンまたはオフにすることには、このダイアログで**使用可能**か**使用不可能**オプションを使用できます

以前使用されていないラベルを表示
このメニュー項目は重複したページにあるCADReportObjectのラベルで機能します。

ユーザが1ページのCadReportObjectの上の1セットのラベルをオフにして、次に、そのページをコピーする場合には、ユーザはオリジナルのページで使用されないラベルを見せさせるのに、コピーされたページでこのメニュー項目を使用できます。

ラベル位置を固定
このメニュー項目は各ラベル用の位置の変更を作成すれば、レポートが再度開かれるときに、PC-DMISがラベル位置を再計算する必要がありません。